



「欲望という名の電車」(1947年ブロードウェイ初公演戯曲)

戦後アメリカ主導で日本を含む世界が洗脳され、民主主義が世界の共通価値観となったが、トランプのアメリカは正反対の反民主主義、反人道主義、アメリカファーストと言う名の利己主義にまい進している。

「国際法も国内法も必要ない、俺が従うのは俺の法だ」と言うトランプの言葉は「朕は国家なり」と言う独裁者を具現している。

民主主義を重んじてきた欧州では極右ルペン率いる国民連合が欧州議会選でも国民議会選(フランス)でも31%以上の支持を得て大勝利している。

欧州の何処の国の選挙でも極右政党の躍進は目覚ましい。

「Authoritarianism(権威主義)へと草木もなびく」。

戦後長きに渡って定着した民主主義の価値観が何故いとも簡単に廃れるのだろうか。

それはアメリカを筆頭に世界は「きれいごと」を言っていられなくなってきたからである。

生まれながらの本能である「欲望を素直に追求するトランプ」に感化された世界は「きれいごとである民主主義をかなぐり捨てて欲望を露わにし始めた」。

5人の艦長が作戦を協議しながら戦う戦艦と、一人の独裁者艦長の命令一過で戦う戦艦とが戦えば、5人の「船頭多くして船山に登る」の戦艦は負けるに決まっている。

「先に結論ありき」を正当化する為の専門家、有識者等々の諮問会議は AI にとって代わり、俗にいう民主的プロセスは不要になってきた。

世界は競って強い国になる為強いリーダーを求める。

日本の国民は「強い防衛力、強い経済力」を掲げる「鉄の女」を選んだ。

とは言えアメリカの民主主義が消えることはない。

トランプが権威という名のカネでグリーンランドを買えば民主主義と言う名のつり銭が残る。

しばらく民主主義脇役の時代が続く。

「欲望という名の電車」で描かれているようにトランプのような利己的、反社会的、法を無視した横暴は、最後には滅びる。

当面は、戦後の洗脳をいち早く払拭出来た者から順にトランプや高市のように強くなれる。

希望は次世代に託すしかないのかも知れないが、ワンチャンスがある。

11月米中間選挙でトランプの共和党が、立憲民主のように壊滅的大敗を帰すれば話は別だ。

私の小冊子 Vol. 156 お申込みは、<https://www.musrjec.com/>

先行受付中！増田俊男の小冊子 Vol.156

『2026年から変わる世界秩序』

現在増田俊男の小冊子 Vol. 156 は先行受付中です。

内容は、*はじめに 宇宙から眺めた日本 *世界は水の流れの如し *国際政治の流れ *国際経済の流れ *停滞から飛躍に変わる日本経済 *丸腰憲法第9条下の安全保障 *日本へ、日本へと草木もなびく、ニッケイ平均10万円目前！などです。価格は、1冊5,800円(送料別)。詳しいご案内、お申込みについてはマスタ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313、HP: <http://chokugen.com/>) まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスタ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313) までお知らせ下さい。